**2009年度西村先生セミナー卒業論文**

**中国における観光規制の撤廃が**

**もたらす経済効果**

経営学部経営学科

2009-12-18

MK5265　　孫媛媛

目　　次

はじめに

1. 外国人の訪中観光旅行
	1. 中国の観光資源
	2. 入国査証の歴史
	3. 日本人の訪中観光

2．　中国人の海外観光旅行

2.1　渡航制限の歴史

2.2　海外観光旅行の発展過程

2.3　訪日中国人の現状

2.4　海外観光旅行拡大の要因

2.5　日本と中国の観光事業の比較

3．　国際観光旅行に対する制限

3.1　関税障壁と非関税障壁

3.2　中国における観光規制

3.3　通貨および出入国税の制限

4．　中国観光の将来

4.1　WTOの予測

4.2　渡航制限緩和の推進

4.3　旅行がもたらす経済効果の予測

まとめ

参考文献

**はじめに**

円を尻目に、元気な通貨を味方につけた外国人観光客が東京に繰り出している。ユーロは3年前に比べて、対日本円で2割近くも上昇。通貨の勢力地図が変われば、物価地図も変わる。現在まだ、中国人が海外に持ち出せる現金は1回の旅行で5000ドルと規制がある。だが、中国にある自分の預金から代金を引き落とせる銀聯カードを使えば、預金残高の範囲内でお買い物し放題。中国人観光客の必須アイテムだ。でも、今は序の口。中国からの観光は、将来全ての規制が撤廃されてからが本番だといわれる。その前に、中国人の自由に出入国し観光しがたい現状を変えなければならない。

1. **外国人の訪中観光旅行**

**1.1　中国の観光資源　[国松06][王文亮01]**

1978年に中国政府は改革・開放政策を打ち出して以来、国家経済発展を推進する資金調達の手段として、国際観光振興を図り、国際水準ホテルやショッピング・センターの建設、交通網の拡大整備、観光施設におけるサービスや運営など、包括的な観光開発に努めてきた。国際観光分野については、世界有数の観光資源を背景に外国人観光客数は劇的に増加している。多くの歴史・自然資源を持ちながらも、その国際観光化には積極的であった中国も、1990年代に入り観光地整備に対する投資や環境保全対策など、急速に国際観光振興への意識が眼覚め、観光大国へ歩み始めている。

**1.2　入国査証の歴史　[国松06]**

1978年12月「全国観光事業会議」で外貨獲得のために外国人客の受け入れ拡大方針が打ち出され、同時にホテル建設や交通手段改善などのインフラ整備の長期計画が発表された。また外国人訪問可能個所も60ヵ所から120ヵ所と倍増、入国査証も個別審査方式から一定事前枠認可方式へと簡素化されたことにより、それ以前の約2～3万人規模から一気に10万人台へ膨らんだ。

国際観光客誘致の条件の中でもかなりのウエートを占めるのが、入国査証、入国手続き、通関の迅速化など入国条件に関するものである。

**1.3　日本人の訪中観光　[鈴木00][JNTO05]**

日本の旅行産業を例に述べよう。2003年のSARSや2005年春における中国人反日デモの際には、中国に進出している外資系ホテルは甚大なる影響を受け、一方、日本の旅行会社などは相次ぐ観光客やビジネス出張者のキャンセルで、経営的にも苦しい立場に立たされた。現在、日本人の中国旅行客は、年間300万人を数えるほどになっており、一見、訪中外国人のインバウンド観光は中国内部の問題だけと考えられるが、中国以外にも大きな影響を及ぼすことがわかろう。

**2．　中国人の海外観光旅行**

　中国の観光政策はインバウンド第一主義であるということを留意しなければならない。中国人の国内旅行を活性化することは国策として2番目、また中国人の外国旅行は3番目に据え置かれ、一般的に締め付けは厳しい状況にあり、これは他国と大きく異なる構図である。ところが、観光大国に関して、インバウンド観光面ばかりに焦点が当てられているが、アウトバウンド観光面においても同時に論じられなければならないと考える。その国民が、健全に充実した国外旅行を同様に楽しむことができてはじめて、そこに真の観光大国が存在する。

　海外観光旅行は国内旅行の基礎に基づいて発展してきた。裕福な国民が国内旅行を経験し、ある程度の旅行経験を積んだ後、海外旅行にも興味を持つようになった。

**2.1　　渡航制限の歴史　[国松06]**

1991～1997年にかけては、海外旅行の人数は平均17.25%の伸びで発展し、1998年から2000年の間では、さらに年平均30%の驚異的な速度で成長し続けてきた。国民の海外旅行上の需要の急増や国際旅行業務提携の持続・拡大の勢いに合わせるためにも、中国政府は中国国民観光目的地の持続増加をさせ、2003年までに24ヵ国および地域を中国国民の自費出国目的地として認可し、すべての近隣国家と国境旅行を展開してきた。

**2.2　　海外観光旅行の発展過程　[国松06]**

中国人のパスポートの種類は出国形態により、大きく分けて2種類になる。「公用」と「私用」である。前者の旅券は一般的に政府派遣で経済、技術、宗教、衛生などに関する場合に発給され、後者の旅券は海外の長期滞在、海外親族訪問、自費留学、観光などに使用されているものである。

そして、中国人の海外旅行の発展過程は、次のようになっている。

中国の自費国民旅行は、①香港・マカオ旅行、②国境旅行、③海外旅行の3つに分かれている。

**2.3　　訪日中国人の現状　[国松06] [王文亮01] [JNTO05][観光07]**

日中両国の国交正常化が実現した1972年には、訪日中国人はわずか643人に過ぎなかったが、改革開放が推進されるようになった1980年代後半には10万人台に上るようになり、1990年に入って20万人台に達した。さらに、1997年に団体での海外観光旅行が自由化された。2000年9月から実施された「中国人訪日観光ビザ解禁」により、その年の2000年に約35万2000人(前年比19.3%増)と大きく伸びた。2001年に39万1000人(同11.3%増)、2002年には45万2000人(同15.6%増)と毎年5万人相当の増加を示している。現在、日本では東京と大阪２ヵ所で観光促進活動を行っているが、従来の訪中旅行中心から中国人の訪日旅行のための窓口ともなっている。中国は訪日旅行の解禁により、「ようこそJAPANキャンペーン」達成の重要なターゲットになったこともあり、両国関係者の観光誘致のための相互交流が一段と活発になっている。

**2.4　　海外観光旅行拡大の要因　[国松06]**

　中国人による海外旅行が急上昇した主な要因は①観光目的旅行の許可、②改革・開放政策の進展による経済的ゆとり、③労働時間の大幅な短縮の3つに分けられている。

**2.5　　日本と中国の観光事業の比較　[国松06] [JNTO05] [観光07]**

中国は外国人の受け入れを最優先課題に挙げており、国内観光、海外観光の順としている。観光需要の拡大にはこうした意図がはっきりと反映されている。日本がテン・ミリオン計画など海外旅行を重視していたのとは大きく異なった考え方である。

**3．　国際観光旅行に対する制限**

　外国人観光客の旅行と外国の観光ビジネスや投資に対する制限は、国家間では珍しくはない。経済協力開発機構(OECD)観光委員会は、OECD諸国内の国際観光に対する障壁を調査した。その中の最も関心の高い部分は、観光旅行に対する出入国制限であることが示されている。このような制限のなかで最も重要なものは、亡命者と不法就労者の増大を統制するための、ある一定の国からの入国査証の要件と、居住者が外国で取得できる金銭の総額に対する制限であった。供給側の視点にたてば、最大の関心は市場参入と外国でビジネスを設立する権利とに関係していた。

**3.1　　関税障壁と非関税障壁　[James05]**

　観光客の国際移動に対する障壁は、関税に類似した障壁か非関税障壁かのどちらかである。

**3.2　　中国における観光規制　[James05]**

　旅行制限と外貨制限の解禁がいかに観光旅行に影響しているかを見てみよう。

**3.3　　通額および出入国税の制限　[James05]**

**4．　中国観光の将来**

　中国に関して、戦争、テロ、第2のSARSなどの突発的な事故や事件が発生しない限り、中国への外国人観光客の流れは断続されると思われる。その結果、中国政府による外貨に関しての介入もなく、中国人の外国旅行の伸びは基本的には上昇カーブをたどると思われる。

**4.1　　WTOの予測　[鈴木00] [国松06]**

　WTOが予測している「2020年の中国への国際観光到着数は1億3000万人で、世界No.1」になるには、中国全土が沿岸部大都市並みになる必要がある。世界の外国旅行者は2010年には10億人に、そして2020年には16億人になると予測されており、特に、アジア地域での国際観光の伸びは著しく、2000～2010年の10年間は、年平均増加率は7.8%と試算もされている。もちろん、このグローバルな観光交流の中心的存在は、「受入国」にしても「送出国」にしても、中国が脚光を浴びるという予測に誰も異を唱える人はいないだろう。

**4.2　　渡航制限緩和の推進　[鈴木00] [国松06]**

　WTO加盟後の新たな情勢に対応するため、出入国管理の簡素化や規制の緩和などが検討されている。2005年までに決定した事項は、香港・マカオへの商務VISAの滞在有効期間を現行の６ヵ月から最長3年に延長する、主要10空港での中国人の入国手続きの簡素化、「2003年までに国際慣例を参考に、中国のグリーンカード制度を制定する」また「2005年までに全国の中・大都市の住民は身分証明と戸籍簿の提出だけで、必要に応じてパスポートの申請を行うことができるようにする」。

**4.3　　旅行がもたらす経済効果の予測[鈴木00] [国松06] [James05] [福光08]**

　近年、急速に拡大し世界の観光市場に大きな影響をもたらしているアウトバウンド観光、すなわち「送出国」として、新型の「観光客輸出国・中国」の観光潮流の影響度合いはどうであろうか。世界的な国際産業に力を入れ経済的活性化を求める国々にとっては見逃せない国であり、また魅力的な国となっている。中国人の個人消費額の高さはすでに各所で現われている。本土中国人と比べて、日本人のほうが“上客”と考えられていたが、実態は決してそうではなく、ショッピングと同様、高級レストランでも中国人の消費投下が目立つ。

**まとめ**

中国人のアウトバウンド面だけではなく、同時にインバウンド旅行も伸びることにより、中国周辺国が平行して伸びる構図になる。このように見ていくと、中国の健全な国際観光の伸びは周辺国にとって極めて重要なことになる。

　しかしながら、中国人のアウトバウンド観光に期待を寄せる際に、同時に中国政府の特異性を心得ておく必要がある。現在、実施されている「中国人の外国旅行」の段階的解禁に関しては、訪中外国人とのバランスを取りつつ、計画的、組織的、制限的の方針を堅持し発展させると表明しているからである。すなわち、国際観光到着者数や外貨獲得高の状況に照らして、中国観光産業全体での外貨収入が支出を上回らなければならないとされている。

＜＜＜＜参考文献＞＞＞＞

[鈴木00]　鈴木勝，国際ツーリズム振興論（アジア太平洋の未来），税務経理協会，2000．

[王文亮01]　王文亮，中国観光業詳説,日本僑報社,　2001．

[国松06] 　国松博・鈴木勝，観光大国　中国の未来，同友館，2006．

[James05]　James Mak，観光経済学入門，日本評論社，2005．

[福光08]　福光恵，Asahi Shimbun Weekly AERA，2008-01-28．

＜＜＜＜参考資料＞＞＞＞

[JNTO05]　日本の国際観光統計JNTO,2005．

[観光07]　観光白書，平成19年度の観光の状況及び施策．

[観光文化] Vol.157，2003．

＜＜＜＜参考Webサイト＞＞＞＞

[読売]「中国人観光客」争奪戦，アクセス日2008-11-16．

　　　<http://tourism-nippon.com/yomiurichina2007.htm>

[世界観光競争力ランキングと観光立国日本]，アクセス日2008-11-15．

<http://www.meijo.ac.jp/library/no.8MasaruSuzuki.pdf>

[中華人民共和国駐日本大使館]　出入国観光客数，アクセス日2008-11-15．

　　　<http://www.china-embassy.or.jp/jpn/zgly/t284012.htm>

[search China]「銀聯カード」導入，アクセス日2008-11-16．

　　　<http://news.searchina.ne.jp/disp.cgi?y=2008&d=0804&f=enterprise_0804_002.shtml>

[おさむと遊多]　現代中国の観光ビジネス，アクセス日2008-11-16．

　　　<http://www2s.biglobe.ne.jp/~youta/huang0001.htm>

[Livedoor’s Blog]　日中観光客事情,アクセス日2008-11-18．

<http://blog.livedoor.jp/ken123atara456/archives/27013691.html>